殺虫剤

パダン®SG水溶剤

カルタップ塩酸塩…… 75.0%

種類名／カルタップ水溶剤
農林水産省登録／第18950号（住友化学登録）
毒性／劇物
有効年限／4年
包装／100g×60、500g×20

特　長

- ネライストキシン系の殺虫剤（カルタップ剤）で、特に食害性害虫に高い効果を示します。
- 特異な殺虫作用：パダンは特に経口殺虫作用が強く、ごく少量の摂食で虫は速やかに麻痺し、死に至ります。稲のコブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、茶のチャノホソガなどのような作物の茎葉を食害する害虫に特に優れた効果を示します。
  また、パダンの殺虫効果のあらわれ方は特異的で、虫の動きがにぶくなって作物を食害できなくなります。
- 散布適期の幅が広い：パダンは散布適期の幅が広く、安定した防除効果を示します。
- 抵抗性害虫にも有効：パダンは有機リン剤やカーバメート剤などとは殺虫作用が全く異なっていますので、他剤では効きにくくなってきた害虫にも高い効果を発揮します。
- ペースト肥料との混和による側条施用処理
  ○田植時にパダンSG水溶剤をペースト肥料に混和し、専用の側条施肥田植機で施用する省力的な処理方法です。
  ○田植、施肥、害虫防除の3つの作業を同時に行うことができ、コスト低減につながります。
  ○薬剤を水に溶かさずペースト肥料に直接混和して使用することもでき、省力的です。
- コナガに優れた効果：パダンはコナガに対し、強い殺卵作用、殺成虫作用、幼虫に対する長い残効性があり、また高温時の効果の持続性にも優れています。コナガ防除はなるべく早期から実施することが肝要であり、有機リン剤、合成ピレスロイド剤、BT剤、IGR剤等作用性の異なる薬剤とのローテーション防除で使用します。
- 溶けやすい顆粒タイプ：水に非常に溶けやすい薬剤です。
- 粉立ちが少なく使いやすい：顆粒剤のため、開封時、薬液調製時の粉立ちが少なくなります。
- WCS用イネにも使用可能です。

適用害虫と使用法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a 当り使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲	ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ	1500倍	60～150 ℓ	収穫21日前まで	本剤　6回 カルタップ剤　6回 ［浸種前は1回、浸種後から直播では種時又は移植時までの処理は1回］	散布
	イネハモグリバエ	1500～3000倍				
	イネシンガレセンチュウ		—	浸種前	本剤　1回 カルタップ剤　6回 ［浸種前は1回、浸種後から直播では種時又は移植時までの処理は1回］	24時間種もみ浸漬
はとむぎ	アワノメイガ	1500倍	60～150 ℓ	収穫14日前まで	2回	散布

（つづく）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a 当り使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
とうもろこし 飼料用とうもろこし	アワノメイガ アワヨトウ ツマジロクサヨトウ	1000～1500倍	100～300 ℓ	収穫21日前まで	2回	散布
	アワノメイガ	8倍	0.8～1.6 ℓ			無人航空機散布
		16倍	1.6 ℓ			
か　き	チャノキイロアザミウマ カキホソガ イラガ フタモンマダラメイガ	1500倍	200～700 ℓ	収穫45日前まで	4回	散布
	カキノヘタムシガ	1500～3000倍				
く　り	モモノゴマダラノメイガ ネスジキノカワガ	1500倍		裂果前	3回	
びわ びわ（葉）	ナシヒメシンクイ			春芽伸長初期まで 但し、収穫90日前まで	4回	
もも ネクタリン すもも	アブラムシ類 クビアカツヤカミキリ			収穫14日前まで	3回	
おうとう	アメリカシロヒトリ			収穫前日まで	1回	
ぶどう	チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ スカシバ類			収穫14日前まで	2回	
キウイフルーツ	キイロマイコガ キウイヒメヨコバイ			収穫30日前まで	3回	
キャベツ	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ナメクジ類		100～300 ℓ	収穫14日前まで	4回	
	アオムシ コナガ	24倍	1.6～3.2 ℓ			無人航空機散布
		48倍	3.2 ℓ			
はくさい	コナガ アオムシ アブラムシ類 カブラハバチ類 ナメクジ類	1500倍	100～300 ℓ	収穫7日前まで	3回	散布
かぶ	キスジノミハムシ			収穫3日前まで	本剤　3回 カルタップ剤　7回 ［は種時の土壌混和は1回、散布は3回、株元散布は3回］	
だいこん	コナガ アオムシ アブラムシ類 カブラハバチ類 キスジノミハムシ ハモグリバエ類 ダイコンハムシ			収穫7日前まで	3回	
てんさい	シロオビノメイガ				4回	

（つづく）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a 当り使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
はつかだいこん	コナガ	1500倍	100～300ℓ	収穫7日前まで	1回	散布
なばな類	コナガ アブラムシ類				3回	
ブロッコリー	コナガ				4回	
チンゲンサイ	ハモグリバエ類 コナガ キスジノミハムシ				3回	
さやえんどう 実えんどう	ウラナミシジミ			収穫前日まで		
	ナモグリバエ	1500～3000倍				
さやいんげん	マメハモグリバエ	1500倍				
ほうれんそう	ミナミキイロアザミウマ アシグロハモグリバエ シロオビノメイガ			収穫7日前まで	2回	
レタス	ハモグリバエ類 ナメクジ類 アブラムシ類			収穫14日前まで	3回	
非結球レタス					2回	
たまねぎ	アザミウマ類 ハモグリバエ類			収穫前日まで	3回	
ねぎ	さび病 アザミウマ類 クロバネキノコバエ類 ハモグリバエ類				2回	
ばれいしょ	ジャガイモガ若齢幼虫			収穫7日前まで	本剤 6回 カルタップ剤 7回 ［種いも粉衣は1回、散布は6回］	
さといも	ネグサレセンチュウ	300倍	—	植付前	1回	30分間種いも浸漬
しそ	アザミウマ類	3000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	2回	散布
ホップ	アズキノメイガ アサノミハムシ	1500倍	200～700ℓ	収穫7日前まで	3回	
しょうが	アズキノメイガ アワノメイガ		100～300ℓ		5回	
くわい	ハスモンヨトウ			収穫30日前まで	3回	
ふき	アザミウマ類 アブラムシ類 フキノメイガ			収穫7日前まで	2回	
ふき （ふきのとう）				収穫120日前まで	本剤 2回 カルタップ剤 4回 ［水溶剤の処理は2回、粒剤の処理は2回］	
茶	チャノホソガ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ		200～400ℓ	摘採10日前まで	1回	
いぐさ	イグサシンムシガ		100～300ℓ	—	3回	
ガーベラ	マメハモグリバエ				4回	
	ミカンキイロアザミウマ			発生初期		
シクラメン	ミカンキイロアザミウマ				5回	

（つづく）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a 当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
樹　木　類 (さくらを除く)	シャクトリムシ類	1500～ 3000倍	200～ 700 ℓ	発生初期	3回	散布
さ　く　ら						
	クビアカツヤカミキリ	1500倍		成虫発生期		

作物名	適用害虫名	10a当り 使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲	イネドロオイムシ	100～200g	移植時	本剤　1回 カルタップ剤　6回 [浸種前は1回、浸種後から直播では種時又は移植時までの処理は1回]	ペースト肥料に溶かし側条施肥田植機で施用する
	イネミズゾウムシ コブノメイガ ニカメイチュウ	200g			

使用にあたって

■使用上の注意

- 本剤を使用した場合には、チオシクラムまたはベンスルタップを含む剤は使用しないでください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- ボルドー液と混用する場合は使用直前に混合してください。
- 本剤を側条施用する場合は次の注意を守ってください。
  ①同一の害虫を防除対象とする育苗箱施用薬剤と併用すると薬害発生のおそれがあるのでさけてください。
  ②使用した機械を洗浄する際は、洗浄水が水路等に流入しないよう注意してください。
  ③アルカリ性ペースト肥料との混和は有効成分が分解するおそれがあるので、混和可能が確認されているペースト肥料以外との混和はさけてください。
- 無人航空機散布に関する注意については「製品情報と注意事項」の見方、「空中散布、無人航空機（無人ヘリコプター等）散布・滴下に関する注意」をご参照ください。
- 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
- ミナミキイロアザミウマの防除に使用する場合、生息密度が高まると効果が劣るので、初発生を見たら直ちに散布してください。なお、ミナミキイロアザミウマは繁殖が早いので、散布はかけ残しのないようていねいに行ってください。
- びわのナシヒメシンクイの防除に当っては、新梢、収穫跡、芽かき跡、剪定跡等に食入した幼虫を対象に散布してください。
- クビアカツヤカミキリ成虫の防除に使用する場合、成虫に直接かかるように散布してください。また殺卵を目的とする場合は、産卵部位である樹幹や枝に十分量かかるように散布してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■薬　害

- イネシンガレセンチュウ防除のため種もみ消毒をする場合、催芽種では薬害のおそれがあるので催芽前に処理してください。
- あぶらな科野菜に使用する場合、夏季高温時の苗や軟弱な苗に対しては薬害を生じるおそれがあるので、このような苗には使用しないでください。
- かきに使用する場合は、果実の着色直前以降は薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- かき、ぶどうには樹勢の弱い場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- ほうれんそうに使用する場合、高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- ガーベラには品種（パープルレイン、マンボなど）によっては薬害を生じるおそれがあるのであらかじめ薬害のないことを確かめた上で使用してください。

●キウイフルーツに使用する場合、新葉に薬害（黄変）が生じることがあるので注意してください。
●シクラメンに使用する場合は、あらかじめシクラメンに散布してみて薬害が出ないことを確かめた上で使用してください。
●なす、たばこには薬害を生じるおそれがあるので、薬液がかからないように注意して散布してください。

■蚕　毒


●蚕に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着するおそれのある場所では使用をさけてください。

■水産動植物への注意


●水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。
●水産動植物（甲殻類、ドジョウ）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池等周辺での使用はさけてください。
●散布後は水管理に注意してください。
●無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
●水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液および容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理してください。
●使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
●浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■安全使用上の注意

●医薬用外劇物ですので取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けてください。
●本剤による中毒に対しては、動物実験でL-システイン製剤の投与が有効であると報告されています。
●粉末は眼に対して強い刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
●粉末は皮膚に対して強い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。


●使用の際は保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
●街路、公園等で使用する場合は、散布中および散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

■貯蔵上の注意

●密封し、直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

本資料の記載内容は2026年8月4日現在の登録内容に基づいています。